

第4回 火山検討会 議事録

1. 開催日時：平成19年2月26日(月) 10:00～12:00
2. 開催場所：日本電気協会 C会議室
3. 出席者：(順不同、敬称略)
 - 委員：衣笠主査(東京工業大学)、中田副主査(東京大学地震研)、
 - 山崎(首都大学東京)、酒井・武田(東京電力)、仲田(中部電力)
 - 片川(北陸電力)、川本(中国電力)、大野(四国電力)、田中(九州電力)、
 - 伝法谷(電源開発)、岡島(リサイクル燃料貯蔵)、三浦・土志田(電中研)、
 - 小林(日本原燃) (計15名)
 - 代理出席：秋山(関西電力・金谷代理)、増田(日本原子力発電・北川代理) (計2名)
 - 常時参加者：河野(電源開発) (計1名)
 - オブザーバ：小鶴(九州電)、花田(原技協)、 (計2名)
 - 事務局：荒木(日本電気協会) (計1名)
4. 配布資料
 - 資料No.4-1 第3回火山検討会 議事録(案)
 - 資料No.4-2 JEAG 火山影響評価指針(仮称)(案)
 - 参考資料1 「JEAG 4608-1998 原子力発電所の耐雷指針」の規定を踏まえた火山影響指針(案)における耐雷に係る規定の必要性について
 - 参考資料2 安全設計審査指針や発電用原子炉設備に関する技術基準を踏まえた火山影響指針(案)における『火山ガスの中操の居住性への影響』について規定することの必要性について

5. 議事

(1) 出席者及び前回議事録(案)の確認

事務局より、本日の代理出席者は2名であり、代理出席者については規約に基づき衣笠主査の承認を頂いた。また、代理出席を含む出席委員は17名であり、規約上、決議に際して求められる委員総数の2/3以上の出席であることが確認された。

また、事務局より前回議事録(案)の紹介を行い、挙手による採決の結果、出席者全員の賛成で了承された。

(2) JEAG 火山影響評価指針(仮称) 案の審議

資料No.4-2により JEAG 火山影響評価指針(仮称)(案)について説明が行われ審議した。

本日のコメントを受けた修正版はメール等で各委員に確認することとし、次回耐震分科会で検討状況の紹介を行うこととした。

主なコメントを以下に示す。

a. 1.2 用語の定義に噴火の定義を加えなくて良いのか。

→ 噴火現象という言葉が残っている部分は見直す。

b. 全体的に「極めてまれではあるが」という記載が何度も出てくるので見直すこと。

c. 2.調査及び評価で、第四紀火山の活動期間の参考資料は付けるのか。

→ 火山学会カタログ等の公表データから日本列島の第四紀の火山の活動期間等について取りまとめた資料を参考資料として付けることを考えている。

学会等で発表したものを引用できれば最も良いので検討のこと。

d. 参表 2.1.1.3-1 は、既往最大を整理したものであり、土石流・ラハールのうち土石流可能性の到達距離は想定値なので表からは削除し、枠外に注記で示す等、見直すこと。

e. 解表 2.1.1.3-1 の火山ガスについて、敷地からの位置関係(例えば火山ガスで死者が出た既往最大距離とする等)での記載ができないか検討すること。また解表から参表を参照している記載は、適切でないの見直すこと。

f. 2.1.2 調査方法の解説で、火山噴出物の「分布を調査」は、「分布と性状を調査」に見直すこと。また(1)文献調査の本文で、「地質調査の調査方針」は「地形・地質調査の調査方針」に見直すこと。

g. 2.1.2 調査方法の解説で、古い時代の火山噴出物の情報が乏しい旨の記載は、2.2 評価の解説部分に同様な記載があることから、削除する。

h. 2.1.4 調査結果表示の様式の解説で、広域火山灰の噴出源の位置について、古い時代の噴出源の位置は分らないことが多いので、原則として等を追記する。

i. 2.2.1.1 噴火の可能性を考慮すべき火山の解説で、火山の活動について「必ずしも同じ様式の活動を繰り返すものでなく、活動様式が時代とともに変化するものである」旨を追加のこと。

j. 2.2.1.1 解説で、「火山の休止期間に関し、信頼できる資料が無い場合には、当該火山の既往の全活動期間で代えることができる」の部分は、事例を含めた分かりやすい文章に見直すこと。

k. 2.2.1.2 原子力発電所の安全性への影響を考慮すべき火山現象の本文で、影響を考慮する降下火砕物の層厚の値は、解説に移すこととした。また、降下火砕物の荷重は、雪荷重と組み合わせることは考えているが、火山性地震時の荷重も組み合わせで考慮するのか、荷重の組み合わせが分かり難いとの指摘があった。本件は、別途議論することとした。

l. 2.2.2 詳細設計段階において施設への影響を評価するための検討事項の解説 5)新火口の形成で「合理的な設計」は、「通常的设计」に修正のこと。

m. 火山影響フローについて、解表 2.1.1.3-1 に示す範囲に第四紀の火山噴出物なしのケースでも、敷地近傍における降下火砕物の確認を行うのでフローを見直すとともに、新火口形成の評価を追記すること。また、本フロー図は参考ではなく本文添付の位置付けとすること。

(3) その他

次回検討会は4月下旬に行うこととした。

以 上